

3月FOMCだけでなく、今年後半の利上げ期待にも影響～米雇用統計

2018年3月5日(月)

注目されたパウエルFRB議長初となる議会証言でも、前向きな姿勢が確認されたこともあり、来月のFOMC(連邦公開市場委員会)での利上げはほぼ確定的に。

また、12月のFOMC時点では3回と見込まれていた年内の利上げについて、4回という見通しがやや強まりつつあります(まだ3回が大勢ではありません)。

こうした中、2月の米雇用統計が9日に発表されます。

完全雇用状況に近いといわれる米雇用市場。

利上げ決定の焦点はインフレ動向に移ってきていますが、この堅調な雇用状況が今後も続くのか、また、インフレとも密接に結びつく賃金状況はどのようなのかなどが注目されるどころです。

2月2日に発表された前回1月分の雇用統計は、雇用者数の伸びが前月比20万人。

予想の18万人を超え、節目といわれる大台に乗せる好結果でした。

12月分が16万人(速報時点14.8万人)から伸びるなど、強いという印象を与える数字でした。

失業率は4.1%と、予想値、前回値と一致。

労働参加率も予想値、前回値と同じ62.7%で、このあたりの変化は無し。

完全雇用に近いという状況だけに、失業率もさすがにここからはなかなか下がらないという印象です。

インフレとの関連から、雇用者数以上に注目を浴びる平均時給は

前月比+0.3%と、事前予想値+0.2%を上回りました。

12月分+0.4%からは鈍化も、12月分も速報時点では+0.3%で、鈍化という印象はなく、

そもそも伸びの水準としては強めという印象です。

前年比にいたっては+2.9%と事前予想値の+2.6%、12月分+2.7%(速報時点+2.5%)を超えるかなりの上昇。

2009年6月以来の伸びを記録しました。

好調な経済状況と、労働需給のひっ迫が賃金の上昇を誘うという、

かなりの好循環が進んでいると見込まれるだけに、

今年これからの利上げにも期待感を与える結果となりました。

相場的には、この後週末を経てダウ平均の史上最大の下げを含む株の大波乱相場が広がったこともあり、

ドル売り基調が目立ちましたが、

雇用統計の数字的には決して悪いものではありませんでした。

そうした状況を踏まえて、今回の雇用統計です。

まず、雇用者数ですが、前回同様の+20万人が期待されています。

節目の大台にのせる好結果で、予想通りの数字が出てくると、

雇用市場の強さへの信頼を増すものとなりそうです。

失業率は4.0%とさらに下げる見込み。

ここ4か月連続で4.1%が続いていますが、さらにそこから下げて2000年12月以来の水準となる見込み。

予想通りの数字が出てくると、かなりの好結果との印象です。

最後に注目の平均時給ですが、こちらも前回同様に前月比+0.3%、前年比+2.9%が見込まれています。

前年比+2.9%はかなり好調な数字だけに、

予想通りの好結果が出てくると、年4回の利上げへの期待感がさらに強まり、ドル買いを誘いそう。

総じて、強めの数字という印象で、

予想通りでもドル買い材料。

予想を上回るとさらにドル買いという印象です。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ